◉韓国政府は22名の留学生らを全員即時釈放せよ！
◉日本政府は22名の留学生らの人権回復に努力せよ！

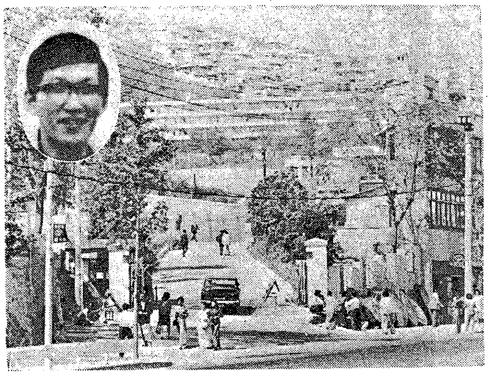
11.22通信

1979年 8月11日
第18号
1部100円＋カンパ
年6回発行
振替口座
大阪4649・摂津富田教会

発行所
「11・22在日韓国人留学生・青年不当逮捕者を救援する会」
大阪府高槻市富田町3－7－25
摂津富田教会（〒569）
電話 0726－96－2562

救援会・対政府交渉実を結ぶ
白玉光氏恩師と面会！
山田阪大教授ー初の快挙

在日韓国人「政治犯」救援運動史上、画期的なトピックスが、去る七月三十日、ソウルからもたらされた。この日の午後、ソウル拘置所で、死刑確定の白玉光氏（31）と、彼の恩師山田信夫氏（60）＝阪大文学部教授＝との二十分間の特別面会が実現した。日本人が在日「政治犯」の死刑囚と面会し、それが公式に確認されたのは、これが初めてで、白氏の家族、救援会、日本政府及び関係者の長期にわたる尽力が実を結んだといえよう。救援会、各界では、当面する救援の最大課題が実現したという、この朗報を心から喜ぶとともに、従来から「内政干渉論」を楯に消極的姿勢に終始してきた日本政府が、この「特別面会」設定に奔走した努力を素直に評価している。また、「11・22救援会」は、この成果を立脚点として、在日韓国人「政治犯」全員の即時釈放を、更に粘り強く政府に突き付けていく決意を明らかにしている。



この特別面会問題は、昨年十二月十四日の第二回対政府交渉時に、救援会より外務省にその斡旋を依頼したことから端を発した。

当初、この問題は余り目立った進展をみせなかった。しかし、これまで白氏との面会を唯一許可されていたオモニ、金小福南さんが、去る二月突然逝去されたことから、にわかにクローズアップされてきた。

日本政府も人道的な問題であるとの認識から本腰を入れ始め、また救援会が面会実現を要請する署名を集める中、関係者の上京も相次いだ。

その結果、一時は山田教授のビザ発給が見合わされるなど緊張する局面もあったが、関係者の熱意が奏功し、何とか実現の運びとなった。

七月三十日。

山田氏に随行した「白玉光氏を救う会」の会員二人は、ホテルに留まった。

山田氏は、まずソウル拘置所の所長室で、所長から面会に関する留意事項の説明を受け、本館二階の特別面会室に案内された。

そこには既に私服の書記二人が待機しており、間もなく白玉光氏が、看守に連れられ現われた。白氏は開口一番、「先生ありがとうございます」と切り出した。

その後は、山田氏から、オモニの最後の面会から一年ぶりに、家族や友人の消息を伝えた。

母親の故金小福南さんの臨終や葬儀の経過も話したが、白氏は、家族からの手紙や事前に弁護士を通じて知らされていたせいか、平静にオモニの死を受けとめているようだった。

また、「将明玉さんとぜひ逢って、相談に乗ってやってほしい」と強調していた。最後に、白氏は山田氏と握手をしつつ、「僕のことを心配してくれる皆さんに感謝を伝えて下さい」と。

なお、この面会には、日本大使館の前田一等書記官も同席した。

（写真は白玉光氏と彼が収監されているソウル拘置所の全景）

救援運動の結節点
新たな跳躍を！
8・23関さん刑期満了

いま「11・22救援運動」は重大な結節点を迎えようとしている。

この八月二十三日に光州矯導所を三年六カ月の刑期満了で出所する関香淑さん（28＝李哲氏夫人）を皮切りに、同二十八日には将明玉さん（26）も大田矯導所から釈放される予定である。また、懲役四年の金東輝氏（23）もこの年末には刑期満了を迎える。

このように刑期満了出獄者への運動の新たな展開と対応を考えて行かねばならない。

ことに、「社会安全法」との係わりで、当局が何の予断もなく「反共法違反者」を釈放するとは信じ難い。また、たとえ釈放しても、KCIAが、日常的監視体制を敷く中から様々な圧迫を加えてくるのは必至であろう。

来るべき事態を踏まえて、満期出獄者の無条件完全釈放と速やかな人権回復の闘いを構築しなければならない。

現在、日本の救援会、各界では、関香淑さんの八月二十三日の釈放に注目している。

彼女が李哲氏の夫人であることから、当局が非転向を貫く李哲氏攻撃の格好の材料として、彼女に卑劣なイヤガラセや脅迫をかけてくることが十分予測される。

そのため、「李哲氏を救う全国連」が中心になり、各地で〃関香淑さんの無条件完全釈放、社会安全法適用阻止〃を掲げ、署名や集会、記者会見などを計画し、着々と実行に移されている。

大阪では、八月十一日に浪速区の部落解放センターで、「11・22救援会」が、「李哲氏を救う全国連」らの後援で「全関西集会」を開き、新たな「政治犯救援運動」を呼びかける。

また八月二十二日、午後六時から大阪北区中之島の剣崎公園で〃関香淑さん刑期満了、完全釈放〃をメインスローガンにした対領事館デモ行動が計画されている。主催は「11・22救援大阪連絡会」。

「政治犯」リスト韓国に
在日も含まれる

去る六月三十日、米韓大統領の第一回会談の席上カーター大統領は、二通の、現在韓国で収監されている〃政治犯リスト〃を示し、「彼らの人権を憂慮している」と朴大統領に強権体制の具体的徹廃を迫った。このリストの一通は、アムネスティが作成したもので、在日政治犯も死刑囚を中心に記載されている。

◇　◇

先号（本通信十七号）で既報のように、ケネディ議員が米国議会で公表した韓国の「政治犯リスト」が「11・22救援会」にも送られてきた。この名簿は、ニューヨークにある「韓国の人権のための北米連合」が調査、作成したもので、英文で三百三十八人の政治犯の氏名が収録されている。

在日政治犯に関しては概ね名簿に入っているが、姜宇奎、李秀熙氏らが脱落しているほか、白玉光氏が釜山大生というように前職が誤って記されているものがかなりある。その他、金哲顕、金整司氏らが行方不明など、不備な箇所が余りにも多いので、「11・22救援会」では、現在このリストの正誤表を作成中である。

光州でハンスト！
柳兄弟、金整司、徐光兌ら参加

光州矯導所に下獄中の在日「政治犯」柳成三氏（26）＝和歌山市＝は、先頃獄中で、待遇悪化に抗議して、他の服役囚ら三十数名とハンガーストライキを行ったことが明らかになった。

11・22関連拘束者としてハンストを行ったのは七七年夏の李哲氏に次ぐもので、救援関係者は一様に驚きの色を隠しきれない。

柳氏のハンストの詳細はまだ明らかになっていないが、関係者の話を総合すると、六月中旬、光州矯導所の収監者三十数名が〃待遇改善〃を叫びハンストに突入した。

理由としては、①腐った食事が出された。②収監者の一部に所内で一切の発言を禁じた。③運動時間がそれまでの二時間から一時間以内に制限された、等があげられている。

ハンストは数日間に及び、この参加者の中には在日「政治犯」で柳成三氏の実兄の柳英数氏(29)、＝無期懲役＝、金整司氏（22）＝埼玉県熊谷市、懲役十年＝も加わった。

さらに、「康宗憲事件」の関連者として裁判などで身震いするような拷問と無実を一貫して主張した徐光兌氏（28）＝ソウル大医学部・懲役八年＝もこのハンストに参加したことが確認されている。

このハンスト行動は、現地韓国の新聞にも報じられた。

ハンスト収束後、矯導所側に一定の処遇改善の兆しがみられているが、当局はハンスト参加者のうち、主だった者十数名を報復として直ちに他の矯導所に移管した。柳成三氏も六月二十一日、大田矯導所へ移管された。

移管に先立って、柳成三氏は廊下を隔てた房に収監されている兄の柳英数氏と握手し、万感こめて別れの挨拶をしたという。

「11・22救援会」では、光州矯導所の不当拘束者らが、身の危険をも顧りみずハンストに訴えるほど、その処遇が悪化している状況を事前に察知できなかったことにショックを受けている。

同救援会では、現在情報収集に全力をあげるとともに、光州に調査団派遣を含む対応措置を関係個別救援会と検討している。

具体的行動として、光州矯導所所長宛の抗議の書簡が発送された。また、事務局製作の抗議葉書きを送るよう各界に要請している。

救援カンパを

在日韓国人「政治犯」救援運動も、今秋ではや四周年を迎えようとしています。

私たちは、もうこの「四周年」に向けて、かってない大きな救援のうねりを作り出す決意で着々とその準備を進めています。

現在、救援会の財政状況は危機に瀕しております。この重要な時期に通信の定期刊行も困難となっています。今一度、どうか無理を承知で、カンパをお願いするものです。（送り先き、郵便振替、**大阪4649**

摂津富田教会）

許、張両氏
旅券発給さる

本年一月無罪判決が確定した許景朝、張永植両氏は、先頃懸案の旅券が韓国政府より発給され、現在ソウルの日本大使館に入国査証を申請中である。

これを受けて法務省と外務省が協議中だが、昨年の対政府交渉で、「無罪なら協定永住権復活」と政府筋が言明していることから、各界では、法務省は早急に決断すべきであるとの声が高まっている。

現在、救援会ではこの事態を静観中だが、後退した決定がなされた場合に備えて、万全の準備を進めている。

各地で相次ぐ
合宿・学習会

救援運動の新たな展開と行動を打ち出すため、各地の救援会では猛暑を吹き飛ばし、学習会や合宿が目白押しに計画されている。

関西では、昨年末の対政府行動を成功に導いた「11月12月行動関西実行委」が「僑胞の会」と共催で、六月から八月まで三回の学習会を開いた。

テーマは、「国際人権規約」、「再入国問題」、「社会安全法」で、のべ約二〇〇人が参加した。

ことに、八月三日開かれた「社会安全法」では、同法を救援運動にいかに位置付けるかで、講師・出席者間で白熱の議論が闘わされた。

また、八月四日から五日にかけて、大阪の部落解放センターで、昨年に引き続き、大田矯導所に収監されている政治犯救援会の合宿が行われた。

更に、八月十一日から十二日にかけて、大阪の個別救援会が中心となり、東京、京都、熊本の個別救援会の交流集会が開かれる予定。

断鎖

八月のある午下り所はソウル拘置所の猫の額のような運動場。白玉光（【】内の発言）、李哲（『』内）、康宗憲（「」）の久し振りの鼎談★【三人が会うなんて珍しいね】「本当ですね」『今年も暑いヨ、何度目だろう』【四度目です】「房内は非衛生だし、通風も悪いから夏は大嫌い」『まァそんなに長くないよ』【本当に当局は僕らを執行しないのだろうか、裏切られてばかりいるので信じられない】「先日、殺人犯でしたが一人執行室に連れて行かれたのを見ました。それで愕然としました。僕も死刑囚なんだと思うと…」『日本の友人らも頑張ってくれているんだが…』「とにかく、釈放を信じてその日まで身体を鍛え勉強をしておこう。それが今の僕らの務めだ」★【先日の制憲節特赦で朴炯圭先生が出所したね】『当局も思い切ったものだ』「でも、これで秋は一波乱起きそうですヨ」『ここがまた満員になりそうだ。この塀の向こうを早く覗いてみたい』【ラジオのニュースで娑婆は猛烈な物価高で喘いでいるらしい】「そういえば売店の品物も軒並み倍ぐらい上がっている」★「永登浦の梁先生も出ましたヨ」【詩人の梁性佑氏？】「そうです」『康君は詩が好きだったネ』【彼は看守に下腹を蹴られて腸間破裂で危篤だと聞いていたが…】「出血が激しく一時はかなり危険だったのは事実です。治ゆしたらいい詩を沢山書いて欲しいです」『詩人といえばここの金芝河氏の情報は入らないね』「奥にいるから」【彼と僕は同じ信仰なので、彼の強靭さがその土壌に根ざしているということが、この頃わかってきた】「哲さん、奥さん（関香淑）が出所されるそうですね」【（はにかみながら）まだ油断はできないが…（でも嬉しそう！）】『それはいいことだ』「出ると聞いているが、詳しい消息は入っていない」【康君、君こそあの可愛いいお嬢さんはどうしたの、裁判にずーっと来ていた…】「判りません、でもいつか会えると確信しています」★寝苦しい真夏の夜の束の間の夢はここで途切れた。

救援　一日も早い救援を

―女性収監者の近況に考える―

金五子さん崔然淑さん、いま……

事務局で通信を編集していると、時として思いがけない情報に接することがあります。期待の持てる嬉しい話ならよいのですが、場合によっては聞くのがとても辛くなることもあります。

これまで私は、同じ女性ということもあって、金五子さんと崔然淑さんの二人にはとりわけ深い関心を抱いてきました。

昨年末頃から、五子さんには、一種の拘禁性ノイローゼになったのでは、というきざしがうかがわれました。これは、三年を越える拘束で身も心も疲れ、さらに〝無期囚〟という重みが、彼女を限りなく苛（さいな）み続けたからに違いありません。

「11・22事件」の不当逮捕者を男性、女性と分けるのは、もちろん好ましいことではありませんが、「拘束」という同じ条件の下でも、やはり社会的に疎外されている女性の方が過重な負担を受けるのは否定できないと思います。

大田矯導所の崔然淑さんも、「雪を見ていると、雪が私の心の中に降り注ぐようです。私の心は雪が降り積り、少しずつ凍りついています」と、手紙で不安な精神状態を訴えています。察するに〝この先、一体いつまでこの地獄にも等しいところで過ごさなければならないのだろう〟という深い嘆きが彼女らの心を支配しているようです。

また、二人とも雑居房にいるため、同室の他の女性収監者との人間関係にことのほか神経をすり減らしています。

今年初め、金五子さんが突然病棟に移されたのは、「あなたの韓国語は上手くない」という、同室の人の心ない、一言が契機だったのではと周囲では想像しています。

ややもすれば〝一生を刑務所で朽ち果てるのでは〟という絶望だけがつのる中で、辛うじて生きる支えとなっていた韓国人「金五子」の全存在を否定するこの言葉が、どれほど彼女に衝撃を与えたかは、想像を絶するものがあります。

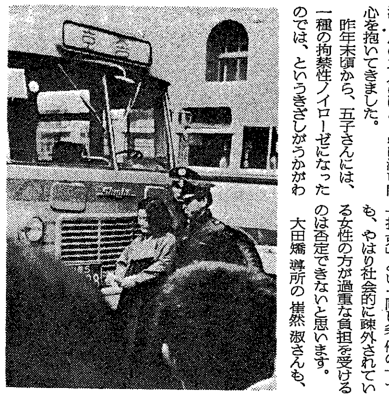
崔然淑さんも手紙で「中で精神的に痛めつけられることがある。ここは人間地獄です。はじめは中の人を信じて裏切られました。今は信用しません」とかたくなになっています。

いま二人が大きな関心を寄せているのは、日本からの手紙や家族との面会です。

金さんも崔さんも、オモニとの面会ではどうしても甘えてしまう、といっています。五月の「釈迦生誕日特赦」をはさんで大邱矯導所を訪れたお母さんに、金五子さんは、「きのう同じ房の一人が出所した」といって、ただ泣きじゃくるだけだったそうです。

彼女たちの心を鎮めるのには、一日も早く釈放をかちとる以外にはありません。

同情や心の痛みを覚えるだけでなく、一人でも多くの人が救援運動に立ち上ってくれることを訴えてやみません。（H・K）



七六年四月ソウル地裁に出頭する金五子さん

崔然淑さん

Q&A

貴紙の〝渡韓報告〟などによく出てくる「領置金」とはどういう制度ですか。韓国ではお金のない者は刑務所にも入れないのでしょうか。（埼玉、Y・U）

日本の「監獄法」に相当する韓国の「行刑法」では〝受刑者には一定の衣服と寝具及び必要な食料を給与する〟（第二十、二十一条）とあるが、実際にはそれだけでは生命を辛うじて維持する程度でしかないようである。そのため、各拘束者に定期的に継続して金品を差し入れなければならない。

領置金とは？

お金がなければ刑務所にも入れない?!

「物品」では衣類、靴、書籍等、そのほか刑務所内外の指定された店内に限りいずれも差し入れ可能である。食料品の種類は、各刑務所によって異なるが、缶詰類が中心で、コーヒー牛乳やヤクルト、それに季節の果物類も取り揃えられている。

さて、問いあわせの「領置金」は、日本の刑務所にはない韓国独特のもので、受刑者の日常生活上必要なものを購入したり、支払うお金を差し入れる制度といえよう。

以前は、受刑者一人に対し、差し入れ金額が一回につき五千ウォン、一カ月に五万ウォンを越えてはならなかったが、近年、韓国内の諸物価高騰のあおりが、刑務所にも波及し、昨年よりこの限度額が各々一万ウォン、十万ウォンに引き上げられている。

受刑者が直接このお金を手にして買い物をすることはできない。金額を記載した通帳状のものを手渡され、各房に備えられている刑務所内の売店の物品目録を参照して、担当看守に購入を依頼するだけである。売店の物品には勿論制約があるが、タオル、歯ブラシ等の日用品から、時には下着、靴下の衣料品や簡単な薬品も備えられているようだ。

しかし、受刑者が最も多額のお金を費消するのは食料品である。これは官給の劣悪な食事だけでは到底我慢できず、副食として生卵、トマト、果子類を常時購入しなければならないからだ。時には肉丼なども取り寄せられるようだ。

このほか領置金の使途としては、書籍購入費（韓国内発行に限る）、通信費、歯の治療費などがあげられ、変わったところでは日本語の手紙の翻訳料を宥無を言わさず差し引かれた人もいる。

このように「領置金」は、韓国の刑務所に収監されている拘束者には、必要欠くべからざるものとなっている。

現在、「11・22事件」の若い拘束者たちには、一カ月四万ウォンから七万ウォン位までの領置金が、日本在留の家族らによって差し入れられているが、家族にとって、定期的な渡韓費用に加えてこれらの金額を長期にわたって捻出することは必ずしも容易ではない。

最後に一つ付け加えよう。

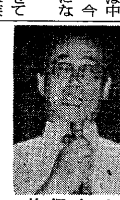
彼らはこれら家族の苦渋を承知しながらも、同房の全く差し入れのない他の収監者らの窮状に心を痛め物品を分かつことが多い、という。（編集部）

韓国で関心高まる

在日政治犯に注目！

韓国の民主化グループの中で、最近とみに在日韓国人「政治犯」問題に対する関心が高まっている。

去る七月十七日、制憲節特赦で八十六人が「刑の執行停止」措置により釈放された。同日ソウル第一教会でその歓迎集会が開かれ、釈放者を代表して朴炯圭牧師が次のような挨拶を行った。



朴炯圭氏

「私のいたソウル拘置所には死刑の在日韓国人〝政治犯〟が沢山いた。彼らは全員手錠をかけられるなど待遇が劣悪だ。彼らは〝自分たちはダマされた。事件はデッチ上げだ〟と主張している。皆さんもそのような人々が存在していることを覚えておいてほしい。ここに来られている機関員（KCIAのことを指す）も帰ったら、上司にこのことを報告してほしい」。

この後、朴氏は、獄中で姜宇奎氏に教わったという詠嘆調の歌を三番まで朗々と歌った。その内容は〝祖国の統一を希求する〟というもので、参加者は深い感銘を受けた、という。

また、ソウルの民主的弁護士や反体制グループの間では、〝緊急措置違反関係者はほぼ年内で釈放されるだろう。その後は、「反共法」事件の『政治犯』及びその関係者の救援が今後の課題に上ってこよう〟との見通しと観測が有力である。

このように、一部を除きかって殆んど顧られなかった在日韓国人「政治犯」問題が、韓国内でも徐々にその関心を高めていることは注目されてよい。

梁南国氏◎光州矯導所

友人の手紙届かず

光州矯導所に懲役十年で下獄中の梁南国氏（28）の近況を伝えよう。

梁氏は作業の木工製作にも慣れ、健康状態もそれほど悪くないという。六月時から刑務所内の処遇が従来の四等級から三級に上がり、月一回の通信が二回まで認められ喜んでいるという。

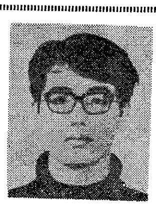
先日、所内で書道の作品展があり、彼も準備を進めていたが、余りうまく書けないとのことで、今回は出品を見合わせたそうだ。日本の友人から毎月定期的に送られる通信物は、一通も届いていない、という。

〝アボジ、オモニお身体を大切に〟

趙得勲

湿っぽい灰色の日々がひとびとをややもすれば憂うつにさせがちな梅雨期のさなか、アボジ、オモニ、その後お変りなくお過しのことでしょうか？

こちらも先週より一日も抜けることなく雨が降り続いて、まぶしい太陽の日射しと青空が恋しく思われる今日この頃ですが、私は相変らず元気でいます。



梅雨に入れば外に出歩くのがためらわれますが、働くひとは雨に濡れる不愉快さをがまんしながら仕事をしなければならないことを考えれば、ここにいる私は幸福にもその様な不愉快さを味わなくて済むのですから、不幸中の幸いとでも言えるかもしれませんね。

ところで、妹からの手紙は、六月二十一日に、日本の方の励ましの葉書二枚といっしょに受取りました。大阪市の山内さんと岡山の倉本さんおふたりからのです。確か山内さんのは二度目ではないかと思います。励ましの言葉を送って下さる心の豊かな方々に心からお礼申し上げます。心豊かなひとびとに幸い有らんことを…。

十年たてば山河も変わると言いますが、私が家を離れて早や四年、兄姉は妹と私を残して、すべて親という責任ある立場において独立した家庭を築いています。変れば変わるものです。現代はスピード時代ですから、大阪も家もたくさん変ったでしょうね?! そして世の中も…。

前の手紙でお願いしたものは今日お願いした通り小包で送られて来ました。先月も先々月も続けてお願いばかりして申し訳なく思っており、自粛しなくてはと思っています。シワを多く刻んだ老眼鏡の顔と針をもつシワがれたオモニの手は、いつも脳裏を離れず、また久しぶりに帰家した時、勤勉に仕事されていたアボジの後姿は、戒めの言葉となり耳もとに囁きます。アボジ、オモニが苦労されたことに対して私が答えねばならぬ道は…。

・さて、今回はこの位で置きます。いつも暖かい心で心配し見守って下さる兄さん姉さん、妹を始めとする皆さんによろしくお伝え下さい。又、次の機会に…。

アボジ、オモニ、お身体を大切に！

六月二十五日　趙得勲

映界「世界人民に告ぐ」

岡本氏寄贈

―李哲氏を救う会へ

映画「世界人民に告ぐ」が、製作者の岡本愛彦氏の好意で、「李哲氏を救う全国連」（事務局・熊本市）に先頃寄贈された。

この映画は、在日韓国人「政治犯」に題材を得て、日本社会に鋭い問題提起を行った作品で、二年前関西の救援会を皮切りに全国上映がなされ、各地で好評を博した。

「李哲氏を救う会」では、この映画の中で李哲氏の死刑確定に至るまでの経過がドキュメント風に描写されていることから、彼の救援に関心のある人はぜひ観て欲しい、といっている。

申し込みは、事務局（熊本市本荘二丁目、熊本大学医学部学生会気付、〇九六三―六三―一一一一内三一三〇）まで。

金鍾太氏

再び雑居房に

昨年末から健康悪化で病棟に入っていた、全州矯導所の金鍾太氏（28）＝懲役十年＝は、先頃ほぼ元通りになったということで、以前の雑居房に移された。

彼は現在、作業の花壇作りに追われながらも、専門の社会学のほか経済学の勉強を続けたいと、獄中にあってもなお意気軒昂としている。

集会案内

「康宗憲君の命と青春を救おう！8・30集会」

▼とき　8月30日（木）午後六時から。

▼ところ　なにわ会館（近鉄上本町下車東南徒歩5分）。

▼なかみ　訪韓報告。講演―「韓国の現状」古野喜政氏（毎日新聞元ソウル特派員）。

▼といあわせ　「康宗憲君を救う会」（牧野まで、〇六―七九二―六九八六）。

救援会短信

◎今号は暑い中、集会にあわせて紙面作りをしたことと、締切り間際になって、山田先生の面会や柳兄弟らのハンストの大ニュースが入り、差しかえの連続でかなり苦労しました。

◎事件発表以来四年。判決確定から三年近くが経過しようとしているのに、「11・22事件」は、次から次へと衝撃的なことができます。頑張らなくっちゃ。

◎七五年夏、既に留学生たちの連行、取り調べが始まっていたという。それから四度目の夏、今、救援運動の真価が問われている。暑さを吹き飛ばし、ガンバロー！